



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

10月号—No.317
2021.9.25
(毎月1回25日発行)

【ピスタチオグリーン】ナッツのピスタチオのような淡い黄緑色。

ピスタチオはウルシ科カイノキ属の樹木。高さ10メートルほどに育ち、雌雄異株で果実は完熟すると赤くなる。その種子を焙煎したものが「ナッツの女王」と称されるピスタチオ。特徴的な淡い黄緑色の実は葉緑素によるもので、ペーストにしてお菓子やアイスクリームなどにも用いられる。

●目次 / contents

今月のニュース	2
令和3年度「市町村立美術館活性化事業」スタート	
財団からのお知らせ	4
ステージラボ豊橋セッション開催のお知らせ / 令和3年度調査研究事業について / WEBでの情報発信のお知らせ	
今月の情報	5
地域通信	
制作基礎知識シリーズ Vol.49	10
舞台芸術に関連する著作権法の例外規定 ～近時の著作権法改正を踏まえて～	
今月のレポート	12
神奈川県平塚市 平塚市美術館「studio COOCAのパッパラパラダイス2021—これがとってもとくいです」	

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

令和3年度「市町村立美術館活性化事業」

「池袋モンパルナス—画家たちの交差点—」展を開催

令和3年度
市町村立美術館
活性化事業
スタート



写真：しもだて美術館での展示の様子

●令和2・3年度市町村立美術館活性化事業 第21回共同巡回展「板橋区立美術館・豊島区所蔵 池袋モンパルナス—画家たちの交差点—」

●8月7日～9月26日／しもだて美術館（茨城県筑西市）

●10月2日～11月14日／瀬戸市美術館（愛知県瀬戸市）

●11月20日～2022年1月10日／酒田市美術館（山形県酒田市）

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会期等に変更が生じる場合があります

[アドバイザー]

弘中智子（板橋区立美術館）

小林未央子（豊島区文化デザイン課）

●市町村立美術館活性化事業に関する問い合わせ

総務部 三田

Tel. 03-5573-4184

*池袋モンパルナス

1920年代以降、池袋界隈には日本各地から上京した芸術家たちが集い、いくつかの「アトリエ村」と呼ばれる一画が形成されていました。そこでは、芸術家同士の交流が盛んに行われ、切磋琢磨しながら新たなアートシーンが生み出されていきました。他にはない独自の雰囲気醸成していたその様子は、パリの芸術家の街になぞらえて「池袋モンパルナス」と呼ばれています。

地域創造では、公立美術館の膨大なコレクションを活用し、身近な市町村立美術館等での鑑賞機会を拡大する「市町村立美術館活性化事業（市美活）」を企画し、平成11年度から20年以上にわたって取り組んできました。その21回目となる巡回展「池袋モンパルナス—画家たちの交差点—」が、茨城県筑西市のしもだて美術館で始まりました。

この展覧会では、板橋区立美術館および豊島区が所蔵している池袋モンパルナス(*)に関連したコレクションを活用し、1920年代から40年代を代表する作品を生み出した画家をはじめ、当時流行していたフォービズムやシュルレアリスム絵画を試みる画家、戦後にこの地でアトリエを構えた画家など、会派を越えたさまざまな画家の作品約80点を紹介しています。しもだて美術館での展示の後には、瀬戸市美術館、酒田市美術館へと巡回します。

今回は、市美活の展覧会がどのように企画され、実施されているかについてご紹介します。

●実行委員会形式で巡回展を準備

市美活は、中核的な美術館からコレクションを借用して市町村立美術館等が共同で開催する「巡回展」と、展示内容に合わせたギャラリートークやワークショップ等の「地域交流プログラム」で構成されています。

巡回展をどのような内容にするかについては、美術事業のために設置している「公立美術館活性化事業企画検討委員会」（全国の美術館館長や学芸員、専門家から構成）に諮り、専門家からの提案によってどこの美術館のコ

レクションを活用し、どのような企画テーマにするかを決定しています。その企画テーマに興味のある参加館を毎年7～11月に公募し（翌年度準備、翌々年度開催）、参加館によって構成される「共同巡回展実行委員会」を設立します（右頁図参照）。

今回は「池袋モンパルナス」をテーマとしたことで、池袋モンパルナスにゆかりのある作家の作品を収蔵している3館が参加し、コレクション貸出協力館の板橋区立美術館と豊島区の学芸員にアドバイザーとなっていて学芸担当者会議（企画会議）を重ね、昨年度から開催の準備をしてきました。

●小規模美術館の活動の可能性を広げる

多くの市町村立美術館は、学芸員数や予算も限られ、収蔵品も思うように収集できないといった課題があります。市美活はこうした小規模美術館の課題に向き合うものでもあります。

平成30年から企画検討委員会委員長を務めていただいている村田真宏委員長（豊田市博物館準備室参与、前豊田市美術館館長）は事業の意義について次のように話しています。

「市美活では、地域創造から展覧会を開催するための助成金が出ますし、参加館に貸出協力館の学芸員をアドバイザーとして派遣するという支援もあります。専門性の高いベテラン学芸員に助言をもらいながら展覧会の中身を組み立てていくことができるのは、恵まれた環境と言えるでしょう。市美活は、全国規模で巡回開催するような共同企画展まで手を伸ばせないような小規模美術館が、日常的な

▼ 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

活動の可能性を広げる機会にもなっています。現在開催中のモンパルナス展は、貸出協力館の作品に加え、各会場で池袋モンパルナスにゆかりのある自館の収蔵作品も取り入れて、展覧会を構成しています。図録にも、参加館の担当学芸員が池袋モンパルナスと地域や収蔵作家の関係性について論文を執筆し、充実した内容となりました。各地域と近代の美術の動向について考える市美活ならではの意義深い展覧会です」

●各地の学芸員が協働

市美活は、研修機会の少ない小規模美術館の学芸員の人材育成や、ネットワークづくりの機会ともなっています。展覧会の準備作業であるカタログ制作、広報、作品の輸送などの業務を各館で分担して実施するため、これまであまり経験のない業務にチャレンジし、各館のノウハウを学ぶスキルアップの機会にもなっています。展覧会の内容や地域交流プログラムについては、テーマや貸出協力館の選定以外は参加館で意見を出し合いながら詳細を詰めていきます。

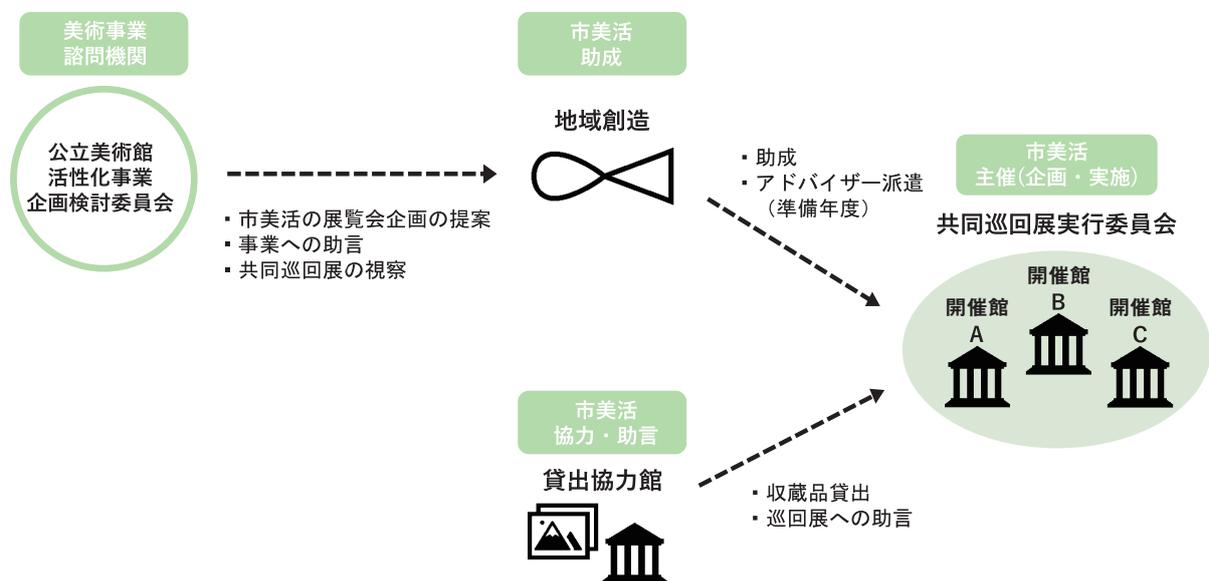
村田委員長は、「離れた地域で、これまで

縁のなかった美術館の学芸員が集まることで、いろいろな考え方や企画の構成の仕方を体得することができます。令和元年度に開催した『見て、感じて、遊ぼう!はなが遊園地—府中市美術館のゆかいな創作版画コレクションより—』は、お客さんの目線に立って企画し、『はなが遊園地』とあるように会場の中で子どもたちが楽しむことのできる、親しみやすさを全面に出した展覧会になりました。展示室内にはスタンプラリーを設置し、すべてスタンプすると多色刷りの版画作品が出来上がる…。特定の日を実施する地域交流プログラムとは異なり、いつでも、展示室を訪れたすべての人が楽しめるプログラムだったことも良かったと思います」と、協働の成果を振り返っていました。

現在、市美活では、令和4・5年度に実施する「福岡アジア美術館所蔵 アジアの美術展(仮称)」の参加館を募集しています(11月30日締切)。地域の方々にとってアジアの美術を身近に鑑賞する機会になりますし、学芸員にとっては国外の作品や現存する現代美術作家の作品を扱う貴重な機会となります。ご参加をお待ちしています。

●令和4・5年度市町村立美術館活性化事業の募集については実施要綱をご確認ください。当財団ホームページからダウンロードできます。
<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/01.html#boshu>

●市町村立美術館活性化事業(市美活)スキーム



▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

財団からのお知らせ

●「ステージラボ」に関する問い合わせ
芸術環境部 藤原・吉川・梅村
Tel. 03-5573-4183

●調査研究報告書
過去の調査研究報告書をホームページで公開しています(PDF版を閲覧・ダウンロードが可能です)。
<https://www.jafra.or.jp/library/report>
※「出版物・調査研究所」→「これまでの調査研究報告書」

●調査研究事業に関する問い合わせ
芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

●「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」登録アーティストプレゼンテーション一般公開の中止について

令和4年度ダン活実施団体向け全体研修会(2021年10月26日～28日)のプログラムの一部として実施を予定していた、令和4年度ダン活登録アーティストプレゼンテーション(10月27日)については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンライン開催とし、一般公開は中止することといたしました。ご予定いただいた皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願いいたします。なお、プレゼンテーションおよび全体研修会の様子は当レター12月号にて紹介予定です。

●ステージラボ豊橋セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和3年度は、穂の国とよはし芸術劇場PLATにて3コースで開催します。詳細や参加者募集は、次号の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

◎ステージラボ豊橋セッション概要

[日程] 2022年2月15日(火)～18日(金)
※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ15日～17日
[会場] 穂の国とよはし芸術劇場PLAT
(愛知県豊橋市西小田原町123番地)
[開講コース(予定)] ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

●令和3年度調査研究事業について

地域創造では、「文化政策」「アウトリーチ」「指定管理者制度」「評価」など今日的な課題をテーマに取り上げ、地方行政における文化政策の立案や公立文化施設の運営に役立つ調査研究を実施しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大

●WEBでの情報発信のお知らせ

地域創造ではコロナ禍の状況も踏まえ、WEBでの情報発信にも力を入れています。財団ホームページでは、当財団のこれまでの事業実績や登録アーティスト情報をデータベースとして検索できるほか、地域創造レターのバックナンバーや各種報告書もご覧いただけます。また「おんかつ支援」のページでは、登録アーティストから提供いただいた所属事務所や個人のホームページ、SNS、動画などのURLをまとめたリンク集を掲載するなど、事業の参考となるような情報も随時更新しています。

昨年リニューアルした「地域文化資産ポータルサイト」では、全国各地の伝統芸能等の映像を掲載。月ごとのテーマに合わせた映像の

防止の観点から県を跨いでの移動に制限が設けられ、各自治体での文化芸術活動が困難な状況となり、より一層地域と文化的なつながりを構築できる人材の育成が求められていると考え、地域において、また公立文化施設において地域と文化・芸術のつなぎ役である「コーディネーター」をテーマに取り上げ、活動が顕在化していると考えられる地域を訪問し、活動状況の視察、関係者のインタビュー調査を行います。本調査は、6月より有識者との意見交換会での検討をスタート。8月には事例調査先が決定し、9月から現地調査を進めています。来年3月末には、調査研究報告書をまとめる予定ですので、ご期待ください。

◎事例調査対象

- 民間スペースを拠点に活動するコーディネーター
- 民間団体に所属するコーディネーター
- 地方公共団体の専門職として活動するコーディネーター
- 公立劇場・ホールを拠点に活動するコーディネーター
- アートNPO的な立場で活動するコーディネーター
- 行政組織とのプラットフォームを設置して活動するコーディネーター

紹介も行っています。そのほか、「地域創造公式YouTubeチャンネル」やFacebookでも随時情報発信をしております。地域創造レターと併せて、ぜひご活用ください。

◎財団ホームページ

<https://www.jafra.or.jp/>

◎おんかつ支援登録アーティストリンク集

<https://www.jafra.or.jp/project/music/03.html>

◎地域文化資産ポータルサイト

<https://bunkashisan.ne.jp>

◎地域創造公式YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCQzyG0gkEMVvdjkLVPh4r_A

◎Facebook

<https://www.facebook.com/RegionalArtActivities/>

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。●で表示している事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 藤原・梅村

●2021年12月号情報締切
10月29日(金)

●2021年12月号掲載対象情報
2021年12月～22年3月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4-12

Tel. 011-642-5709 平井菊花

<http://www.hongoshin-smos.jp/>

第3回本郷新記念札幌彫刻賞 受賞記念 高橋喜代史展 言葉は橋をかける

札幌を拠点とする美術家・高橋喜代史は、書道と漫画を造形の源泉とし、記号化された文字や言葉の多様性をテーマとした表現活動を続けており、昨年本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した。本展では、漫画に用いられる擬音語をモチーフとした立体造形や、他者との隔たりや繋がりを問うパフォーマンスを記録した映像インスタレーションなどを展覧し、高橋の表現の現代性に迫る。

[日程]10月1日～12月5日

[会場]本郷新記念札幌彫刻美術館



高橋喜代史《ザブーン》(2021年/鉄、塗料/大通交流拠点地下広場設置)
撮影:小牧寿里

●福島県福島市

白河文化交流館コミネス
〒961-0075 白河市会津町1-17
Tel. 0248-23-5300 祓川徳子
<http://cominess.jp/>

白河まちなか音楽3Days2021

コミネスや白河市のまちなかに残る歴史的建造物、寺などを会場に、さまざまなジャンルのコンサートを開催。メイン公演のひとつ「赤白の天の川」(10月11日)は、オーケストラとの共演や他ジャンルとの融合の試みも多い三味線演奏家・本條秀慈郎によ

るコンサート。東北をテーマとした楽曲や、オリジナル曲などを演奏する。ゲストに尺八の黒田鈴尊を迎える。二人は10日、11日とまちなか会場でも演奏を披露。

[日程]10月9日～11日

[会場]白河文化交流館コミネス、マイタウン白河、大統寺ほか

●福島県福島市

ふくしん夢の音楽堂

〒960-8117 福島市入江町1-1

Tel. 024-531-6221 小林宏彰

<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/ongakudou/>

古関裕而のまち「ふくしまチェンバー・オーケストラ」創立記念コンサート

福島ゆかりのプロの音楽家で構成され、ふくしん夢の音楽堂を拠点に活動する古関裕而のまち「ふくしまチェンバー・オーケストラ」の創立記念コンサート。福島市出身の作曲家・古関裕而の偉業を称え、コロナ禍でも文化芸術活動を停滞させず、地域に活力を創出するために活動していく。より多くの人々を巻き込んで開催するため、コンサート開催に必要な資金を募るクラウドファンディングを実施。

[日程]10月17日

[会場]ふくしん夢の音楽堂



前身の「音楽堂チェンバー・オーケストラ」のコンサート風景

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団

〒310-0063 水戸市五軒町

1-6-8

Tel. 029-227-8111 高巢真樹

<https://www.arttowermito.or.jp>

小さな聴き手のためのコンサート たいようオルガン

絵本作家・荒井良二による『たいようオルガン』は、溢れる色彩感と生命力、遊び心たっぷりの言葉の魅力が詰まった絵本。この本をモチーフに作曲家・野村誠がソプラノとオルガンのための音楽作品をつくり、小林沙羅の歌声と石丸由佳によるパイプオルガンの音色がそこに息吹を注ぎ込む。スクリーンに映し出される原画とともに、音楽版『たいようオルガン』の旅を楽しめるファミリー向けのコンサート。

[日程]11月3日

[会場]水戸芸術館

●栃木県足利市

足利市立美術館

〒326-0814 足利市通2-14-7

Tel. 0284-43-3131 篠原誠司

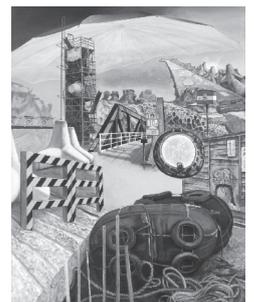
<http://www.watv.ne.jp/~ashi-bi/>

高山良策展 空想する闇と光～ 足利市立美術館所蔵品による

シュルレアリスムの手法を基に絵画や立体作品を制作し、円谷プロなどの特撮番組に登場する怪獣造形の実作者でも知られる高山良策(1917～82)の個展。闇と希望が交差する空想世界という、高山独自のリアリティを纏った描写に着目し、所蔵する約700点の作品から、油彩や水彩、ドローイングなど272点を厳選して展示する。

[日程]8月21日～10月10日

[会場]足利市立美術館



高山良策《風景》(1972年/キャンバス・油彩/足利市立美術館蔵)

●埼玉県秩父市

秩父宮記念市民会館

〒368-8686 秩父市熊木町
8-15

Tel. 0494-24-6000 大川・高井
<https://ccbhall.saitama.jp/>

あつまれ!にぎょうげき@市民会館

秩父市内外で人形劇をテーマに活動している4団体を招聘し、人形劇の上演やパペットづくり、人形操作のワークショップなど、1日で人形劇を堪能できる体験型イベント。親子ペア券やワークショップ・公演セット券などを用意し、親子で気軽に参加しやすくしているほか、ワークショップと上演を併せて体験することで、人形劇への理解をより深めてもらう機会とする。

[日程] 10月10日

[会場] 秩父宮記念市民会館



劇団にぎょうげき(秩父市)

●千葉県松戸市

松戸市文化観光国際課

〒271-8588 松戸市根本387-5
Tel. 047-366-7327 尾形一枝

<https://science-art-matsudo.net/>

科学と芸術の丘2021

創造的な街・松戸を目指して、徳川昭武が建てた戸定邸(国の重要文化財)を舞台に、科学・芸術・自然が融合した国際フェスティバルをリアル会場とオンラインで開催。4回目となる今年は、「OPEN CITY—触発する街—」をテーマに、世界が目にする文化機関・アルスエレクトロニカ監修・協力のもと、世界で活躍する研究者・アーティストが特別展示やトーク、ワークショップなどを行う。最先端のテクノロジーや

アートを披露して、新たな未来の可能性を提案する。

[日程] 10月16日、17日

[会場] 戸定邸、松雲亭、戸定が丘歴史公園、松戸駅周辺の商業施設・店舗ほか

●千葉県浦安市

J:COM浦安音楽ホール

〒279-0012 浦安市入船1-6-1

Tel. 047-382-3035 加藤幹人

<https://www.urayasu-concerthall.jp/>

オペラと歌曲で巡るヨーロッパ音楽紀行(全3回シリーズ第1回〜ドイツ編〜)

ヨーロッパ各国のオペラと歌曲に焦点を当てた実力派歌手による演奏会。全3回シリーズの第1回は「ドイツ」をテーマに展開。ナビゲーターは、欧州の歌劇場で音楽スタッフ(コレペティトゥア)としても活躍するピアニストの江澤隆行。演奏会の前半では、国により見え方、聴こえ方、楽しみ方が変わることを実演付きで解説。後半は、その知識をもった上で、演奏を楽しめる内容。

[日程] 10月5日

[会場] J:COM浦安音楽ホール

●東京都墨田区

墨田区文化振興財団

〒130-0013 墨田区錦糸1-2-3

Tel. 03-5608-5404 正木燈子

<https://www.triphony.com/>

みなさん、「ようこそ!リラックス・コンサート」〜子育てを見守る方々もどうぞ!〜

子育ての難しさや大変さを経験している人に贈るコンサート。子育てに役立つ情報や家族以外の方と関われる安らぎの場を提供する。第1部は、賛育会病院産科科長の福田えりか氏を招き、まさに今子育て中である指揮者・和田一樹との話から子育てに関わる方へアドバイスを交えてエールを送る。第2部は、新日本フィルの演奏で久石譲作曲の

『さんぽ』など子どもから大人まで楽しめるコンサートを実施。

[日程] 11月3日

[会場] すみだトリフォニーホール

●東京都大田区

大田区文化振興協会

〒143-0024 大田区中央4-2-1

Tel. 03-3772-0680 木村拓也

<https://www.ota-bunka.or.jp/facilities/ryushi>

コラボレーション企画展

「川端龍子vs.高橋龍太郎コレクション—会田誠・鴻池朋子・天明屋尚・山口晃—」

現代アートコレクターである精神科医・高橋龍太郎のコレクションを、日本近代画家・川端龍子の作品とともに展示する時代を超えたコラボレーション企画。日本の現代アートを代表する4人の作家の作品と、龍子の代表作が一堂に会することで、龍子ファン、現代アートファンがそれぞれの作品の魅力を再発見できる。

[日程] 9月4日〜11月7日

[会場] 大田区立龍子記念館

●東京都豊島区

としま未来文化財団

〒170-0013 豊島区東池袋1-

20-10 としま区民センター4F

Tel. 03-5924-6611 師岡斐子

<https://www.owlspot.jp/>

みんなのシリーズ第六弾

「能でよむ〜漱石と八雲〜」

誰もが一緒に楽しめる観劇サポート付き公演「みんなのシリーズ」。障害の有無にかかわらず鑑賞できるよう字幕や音声ガイドなどアクセシビリティも充実させている。第六弾は「能」をキーワードに夏目漱石と小泉八雲、2人の文豪の奇妙な縁を読み解くリーディング企画。なかでも『吾輩は猫である』鼠の段は安田登(下掛宝生流ワキ方能楽師)が手話を交えて演じる必見の作品。演目の前に木ノ下歌舞

伎主宰・木ノ下裕一と安田によるトークも交えて行われる。

[日程] 10月3日

[会場] あうるすぽっと



「能でよむ〜漱石と八雲〜」(安田登)
撮影:川面健吾

●横浜市

神奈川県立音楽堂

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-2

Tel. 045-263-2567 井上はるか

<https://www.kanagawa-ongakudo.com/>

音楽堂室内オペラ・プロジェクト第4弾 ブルーノ・ジネール『シャルリー〜茶色の朝』日本初演

「フランス社会を変えた」と言われる寓話「茶色の朝」のオペラ化作品を現代のフランスを代表する作曲家のひとり、ブルーノ・ジネールと欧州で広く演奏してきた実績をもつ「アンサンブルK」で日本初演する。公演は3層構造で開催され、オペラのほかにも室内楽コンサートやオンラインで日本人ゲストスピーカーと共にジネールを囲むクロストークが予定されている。

[日程] 10月30日、31日

[会場] 神奈川県立音楽堂

●横浜市

横浜市民ギャラリー

〒220-0031 横浜市西区宮崎町26-1

Tel. 045-315-2828 大塚真弓

<https://ycag.yafjp.org/>

新・今日の作家展2021

日常の輪郭

横浜市民ギャラリーが開館した1964年から40年にわたり開催

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

した「今日の作家展」を継承した展覧会。「日常の輪郭」を副題に、写真家の田代一倫と、美術家で映像を主なメディアとする百瀬文の作品を紹介する。出来事の複層性や自己と他者との関係性のゆらぎを表す作品を通じて、私たちの日常の曖昧な輪郭をとらえながら「今日」に向き合うきっかけをつくる。

[日程] 9月18日～10月10日
[会場] 横浜市民ギャラリー

北陸・中部

●新潟県上越市

上越文化会館
〒943-0804 上越市新光町1-9-10
Tel. 025-525-4103 内山光太
<http://www.joetsu-bunkakaikan.com/>

マイタウン・コンサート2021 in中郷

新潟県出身、県在住演奏家によるトークを交えた生演奏の魅力を伝える親しみやすいコンサートを新潟県文化振興財団との共催で開催。アーティストに演奏の場を提供するとともに、生の音楽を聴く機会が少ない人にも気軽に参加してもらえるアットホームな公演。演奏者も地域の要望により選定し、アレンジの効いた企画が可能。今回はチェロとハープ。それぞれのソロはもちろんのこと、新潟出身の息の合った二人の響きの美しさ、心地良さが楽しめる。

[日程] 10月24日
[会場] はーとびあ中郷

●長野県長野市

長野市芸術館
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613
Tel. 026-219-3100 垂澤直也
<https://www.nagano-arts.or.jp>

長野市芸術館 凱旋コンサート・シリーズVol.5「信州3男子ピアノ・バトルII」

2019年から始まった長野出身の演奏家たちが故郷に凱旋するシリーズ。昨年好評だった3名の若手ピアニスト(松橋朋潤、梨本卓幹、久保亮太)が3台のピアノを同時演奏するコンサートの第2弾。音楽専用のホールではなく、平土間のホールの中央に3台のフルコンサート・グランドピアノを設置し、四方を客席が囲む。照明にも凝るなどスタイリッシュかつイベント性の高い企画となっている。

[日程] 10月2日
[会場] 長野市芸術館



前回公演の様子

●長野県上田市

サントミュージゼ
〒386-0025 上田市天神3-15-15
Tel. 0268-27-2000 田澤拓朗
<https://www.santomyuze.com/>

“BLACK BOTTOM BRASS BAND” Live!

ニューオリンズスタイルでストリート・ライブ・スタイルの演奏を行うBLACK BOTTOM BRASS BANDによる公演。トークと軽快なリズムで観客を盛り上げながら、オリジナル楽曲や馴染みのあるプラスバンド曲を披露する。関連企画として、BBBBがニューオリンズ音楽の魅力について語るトークイベントや、楽器を持ち寄ってBBBBと一緒に『聖者の行進』を演奏するワークショップも行われる。

[日程] 10月3日
[会場] サントミュージゼ(上田市交流文化芸術センター)

●長野県佐久市 佐久市文化事業団

〒384-0303 佐久市下小田切124-1
Tel. 0267-82-3962 岩松靖宏
<http://www.saku-cosmohall.jp/>

オペラハイライト第5弾 魅惑のヴォーカル世界

佐久市コスモホールのアウトリーチ事業の一環で開催している特別公演「オペラハイライト」の第5弾。今回はソリストの技量が問われるオペラのアリアと有名なヒットミュージカルナンバーが同時に聴けるプログラムを用意。幅広い年代の方にお楽しみいただくとともに、明日への活力を取り戻していただく。

[日程] 10月10日
[会場] 佐久平交流センター

●岐阜県岐阜市

岐阜県美術館
〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22
Tel. 058-271-1313 鳥羽都子
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

ab-sence/ac-ceptance 不在の観測

“不在”をテーマに、3組の作家がそれぞれ独自の視点から、自身の作品を通して、姿をもたない存在や言語に回収されざる存在とのコネクトを試み、あるいは認識の働きに潜む事象に目を凝らす。作家はまた、岐阜県美術館の所蔵品に新たな解釈を付加し、別の時間軸に出現させる。それらの行為や思考を重ね合わせることで、我々が“不在”と考えているものの根拠、概念を問い直していく。

[日程] 10月1日～11月28日
[会場] 岐阜県美術館



ミルク倉庫+ココナッツ《scratch tongue table》展示風景(2019年)
撮影: 森田兼次

●岐阜県可児市

可児市文化芸術振興財団
〒509-0203 可児市下恵土3433-139
Tel. 0574-60-3311 澤村潤
<https://www.kpac.or.jp/ala/>

ala Collectionシリーズvol.12 『紙屋悦子の青春』

過去の優れた戯曲に焦点を当て、第一線で活躍するキャスト・スタッフが1か月間可児市に滞在して演劇作品を制作・公演し、全国へと作品を発信するプロジェクト。今回は、戦争に翻弄されながらも真っ直ぐに生きる若者たちの愛と友情を描いた劇作家・松田正隆の代表作を、演出家・藤井ごうと実力派の俳優陣でお届けする。

[日程] 10月1日～10月4日
[会場] 可児市文化創造センター ala

●静岡県

静岡音楽館AOI
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1-9
Tel. 054-251-2200 竹内啓
<https://www.aoi.shizuoka-city.or.jp/>

静岡・室内楽フェスティバル 2021 東京六人組 演奏会 木管五重奏とピアノの調べ

「静岡・室内楽フェスティバル」は、静岡音楽館AOIを中心に市役所や美術館など静岡市のさまざまな場所で、約2カ月にわたり開催。初出演の「東京六人組」は、若手演奏家の中でも目覚ましい活躍で注目を集めるフルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・ホルン・ピアノのアンサンブル。『亡き王女のためのパヴァーヌ』などを演奏予定。室内楽ホールに適した編成であるため、ホールの音響効果や美しい音色を、より体感することができる。

[日程] 10月29日
[会場] 静岡音楽館AOI

●名古屋市



やっとかめ文化祭実行委員会
〒460-8508 名古屋市中区三
の丸3-1-1
Tel. 052-972-3172 内田はるな
<https://yattokame.jp>

やっとかめ文化祭～芸どころ・ 旅どころ・なごや～

名古屋の伝統文化を市内一円で体感できる文化祭。「芸どころ名古屋」と謳われた地域ならではの本格的な能楽・ナゴヤカブキ・神楽太鼓の舞台公演を実施する。他にも、「まちなか寺子屋」として歴史的建造物を活用し、伝統文化や歴史に関するワークショップや講座を実施する。期間中は、さまざまなプログラムを毎日開催するとともに、一部をオンラインでも配信する。
[日程] 10月23日～11月14日
[会場] 名古屋能楽堂、中村文化小劇場、青少年文化センターアートピアホールほか

●愛知県稲沢市

稲沢市荻須記念美術館
〒492-8217 稲沢市稲沢町前
田365-8
Tel. 0587-23-3300 河合志穂
<http://www.city.inazawa.aichi.jp/museum/>

生誕120年記念 荻須高德展 —私のパリ、パリの私—

パリに生き、その街並みを独自の視点で表現した画家・荻須高德(1901～86)の生誕120年を記念した展覧会。パリの街並みを描いた作品を中心に、渡仏初期から晩年までの荻須の代表



《ガラージュ》(1937年/油彩・カンヴァス/稲沢市荻須記念美術館蔵) ©ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2021 E4062

的な油彩画81点を一堂に展示し、画風の変遷をたどる。関連事業として、荻須の長女・恵美子氏によるギャラリートークや、大学との連携講座によるミニコンサートと作品解説なども実施。
[日程] 10月23日～12月19日
[会場] 稲沢市荻須記念美術館

近畿

●三重県伊賀市

伊賀市文化都市協会
〒518-0809 伊賀市西明寺
3240-2
Tel. 0595-22-0511 友田律子
<http://www.bunto.com/>

伊賀市文化会館開館30周年記念事業 オペラ『ヘンゼルとグレーテル』

クラシック音楽の普及に力を入れてきた伊賀市文化会館の開館30周年を記念した市内で初のオペラ公演。同市出身の声楽家・味岡真紀子がヘンゼル役を務める。また、地元の合唱団やバレエスクールの子どもたちも特別出演する。関連イベントとして、小中学生を対象にリハーサルの様子や舞台の大道具、衣装などが見学できるボックスツアーを実施。
[日程] 10月17日
[会場] 伊賀市文化会館

●京都市



京都国際舞台芸術祭実行委員会
〒604-0862 京都市中京区少将井町229-2 第7長谷ビル6F
Tel. 075-213-5839 川崎陽子
<https://kyoto-ex.jp/>

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2021 AUTUMN

国内外の実験的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を新しい形の対話でつなぐことを目指し、2010年から毎年開催している芸術祭。2020年度より川崎陽子、contact Gonzoの塚原悠也、ジュリエット・ナップ3

名の新プログラムディレクターが就任。今回のキーワードは「もしもし?!」。声・音・語り・静寂など多様な切り口でキーワードにアプローチする作品群の上演、リサーチ、エクステンジによる3つのプログラムで、見えない声、聞こえない音を発見していくことを目指す。

[日程] 10月1日～24日

[会場] ロームシアター京都、京都芸術センター、京都芸術劇場春秋座ほか



ルリー・シャバラ(ボイス・パフォーマー/インドネシア) Photo by Wandirana
※新作パフォーマンス「ラウン・ジャガッ:極彩色に迷える声」(10月9日、10日/ロームシアター京都)

●大阪府豊中市

豊中市立伝統芸能館
〒561-0884 豊中市岡町北1-4-1
Tel. 06-6850-1313 佐々木勝美
<http://www.toyonaka-hall.jp/dengei/>

第76回豊中芸人倶楽部寄席

落語や講談などを通じた伝統芸能の普及・継承を目的とし、市民文化の振興と発展を図る恒例の人気企画。今回は、1月の開催以来約9か月ぶり、76回目の開催となる。出演するのは豊中市にゆかりのある6名の噺家たち。古典に新作、人情噺に笑い話などの6つの噺を繰り広げ、伝統の話芸を存分に堪能できる公演となっている。

[日程] 10月2日

[会場] 豊中市立伝統芸能館

●奈良県奈良市

奈良県立美術館
〒630-8213 奈良市登大路町10-6

Tel. 0742-23-3968 松川・飯島
<http://www.pref.nara.jp/11842.htm>

生誕200周年記念 森川杜園展

奈良県出身の彫工・森川杜園は、奈良の伝統工芸・奈良人形(一刀彫)の名手として知られている。また、明治期には正倉院宝物をはじめとする県下の名宝の模写・模造にも取り組み、日本の彫刻史に確かな足跡を残した。生誕200周年を記念する本展では、国立博物館からの貸与品をはじめとする、杜園の卓越した技術が発揮された名品約200点を展示し、その魅力溢れる造形世界を紹介する。
[日程] 9月23日～11月14日
[会場] 奈良県立美術館

●奈良県奈良市

なら100年会館
〒630-8121 奈良市三条宮前町7-1
Tel. 0742-34-0100 田中浩
<http://www.nara100.com/>

なら100朗読コンサート 「生命(いのち)、輝いて～人と自然と奈良と」

ソプラノ歌手・岡田由美子とフリーアナウンサーの都築由美による歌と朗読のコンサート。今回は改めて“いのちのありがたさ”を、日本の始まりの地、奈良で感じてもらえるプログラム。公演時は公募した奈良の生命、自然歴史・文化をテーマにした写真スクリーンに投影する。
[日程] 10月16日
[会場] なら100年会館

●和歌山県和歌山市

和歌山県立近代美術館
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14
Tel. 073-436-8690 青木加苗
<https://www.momaw.jp/>

コミュニケーションの部屋

美術館の展覧会は、作品と向き合い、作者や他者の考え方を共

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

有する点でコミュニケーションのための空間と言える。本展では、作品の作者、展覧会を見る人、そして展覧会をつくる美術館の立場も含めたさまざまなコミュニケーションの形を、野田哲也やトーマス・ルフなどの収蔵作品主体の展示において考える。みんなでお話しをしながら作品を楽しむ「だれでも美術館部」などの関連イベントも行われる。

[日程] 8月15日～10月10日

[会場] 和歌山県立近代美術館



野田哲也《日記 1971年5月15日》(1971年/木版・スクリーンプリント、紙/和歌山県立近代美術館蔵)

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団

〒680-0017 鳥取市尚徳町

101-5

Tel. 0857-21-8700 野田景子

<http://site.torikenmin.jp/kenbun/>

なるほど!クラシック ストラヴィンスキーの肖像～パレエ・リュスとその時代～

演奏を交えながらクラシック音楽についてのお話しを聞くことで、音楽を身近に感じ、コンサートに行く楽しみが広がるレクチャーシリーズ。今回は作曲家新倉健が、とっとりチェンバーオーケストラのヴァイオリン奏者竹田詩織をゲストに迎え、ロシアのパレエ団「パレエ・リュス」が活躍した20世紀初頭の時代背景とともに、パレエ音楽で有名なストラヴィンスキー音楽の魅力について語る。

[日程] 10月10日

[会場] とりぎん文化会館(鳥取県立県民文化会館)



8月に開催したチャイコフスキーのレクチャーの様子

●鳥根県益田市

鳥根県立石見美術館

〒698-0022 益田市有明町5-15

「グラントワ」内

Tel. 0856-31-1860 角野広海

<http://www.grandtoit.jp/museum/>

河井寛次郎と鳥根の民藝 —手がつくる、親しいかたち—

鳥根県安来市出身の陶芸家・河井寛次郎(1890～1966)は、京都を拠点にさまざまな釉薬や制作技法を駆使して多彩な作品を創造した。河井は思想家・柳宗悦(1889～1961)らと民衆の手仕事による工芸品に美的価値を認める「民藝運動」を興したことで知られ、本展では彼らの審美眼によって選ばれた作品を中心に紹介する。河井の内弟子を勤めた石見の陶工による陶器制作の実演鑑賞も実施。

[日程] 9月11日～11月1日

[会場] 鳥根県立石見美術館

●岡山県新見市

新見美術館

〒718-0017 新見市西方361

Tel. 0867-72-7851 徳山亜希子

<https://www.city.niimi.okayama.jp/usr/art/>

日本芸術院所蔵 時代を彩った日本画名品展

日本芸術院が所蔵する日本画より、横山大観、竹内栖鳳、川合玉堂などの巨匠から現在も活躍する作家まで36点の優作を展示して、それぞれの時代を彩っ

た日本画を鑑賞できる機会を提供する。11月3日には、梅田剛嗣氏(わがみやうめだ店主)を講師に招き、新見産の神代和紙を柿渋で染めてコースターをつくる和紙体験を実施する。

[日程] 10月9日～11月28日

[会場] 新見美術館

九州・沖縄

●福岡県那珂川市

那珂川市教育文化振興財団

〒811-1253 那珂川市仲2-5-1

Tel. 092-954-2211 朝長尚平

<http://www.mirika.or.jp/index.html>

Mirika Specialコンサート 筑前琵琶

「ジャズ」「筑前琵琶」「クラシック」とそれぞれのジャンルを3回に分けて実施する新企画。10月は神秘的な音色が特徴の「筑前琵琶」によるコンサートを開催。福岡県出身の尾方蝶嘉が出演する。単独では初めての試みということに加え、聴く機会が少ない楽器であるため、コンサート中に資料を用いて、丁寧にわかりやすく楽器の魅力を解説する工夫も。

[日程] 10月10日

[会場] ミリカローデン那珂川

●宮崎県都城市

都城市文化振興財団

〒885-0024 都城市北原町

1106-100

Tel. 0986-23-7140 徳永紫保

<http://mj-hall.jp/>

国文祭・芸文祭みやざき2020 アート×ハート＝パワフルフェスタ第2部 障がいのある人もない人も共に創るステージ「明日はあしたの都城」

「都城の宝」をテーマに、障がいのある人とない人が一緒につくるダンス公演。ダンサー・振付家の近藤良平を総合演出に迎え、公募した市民と共に、ダンスをメインとしたオリジナル作品を制

作。都城の“宝”を未来に繋げること、障がいのある人とない人が尊重し合えるまちをつくることをテーマに、エネルギッシュなステージを披露する。

[日程] 10月3日

[会場] 都城市総合文化ホール

●鹿児島県霧島市

鹿児島県文化振興財団

〒899-6603 霧島市牧園町高千穂3311-29

Tel. 0995-78-8000 西村彬

<https://miyama-conseru.or.jp/>

野外音楽フェス～みやまの森の響き～音楽の森で「さあ深呼吸」～あした天気になあれ～

鹿児島県内で活躍している音楽団体を広く紹介するとともに、出演団体相互の交流を深めることを目的として、毎年開催しているコンサート。今年は、全日本吹奏楽コンクールや全日本マーチングコンテストで金賞を何度も受賞している玉名女子高等学校吹奏楽部を特別ゲストに迎え、子どもから大人まで楽しめるプログラムを用意している。雨天時は、特別ゲストのみ主ホールで開催予定。

[日程] 10月17日

[会場] 霧島国際音楽ホール

(みやまコンセール)

クリスマス・新春企画 情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。

下記までどしどし情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4183

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 10月29日(金)

舞台芸術に関わる例外規定

制作基礎知識シリーズ Vol.49

舞台芸術に関連する著作権法の例外規定

～近時の著作権法改正を踏まえて～

講師 寺内康介(弁護士)

著作権法は2018年、2020年と続けて重要な改正が行われました。例外規定(権利制限規定)の拡充が続いていることも特徴のひとつです。例外規定とは、他人の著作物を権利者の許諾なく利用できる例外的場面を定めた規定です。

舞台芸術において、戯曲の上演、楽曲の演奏、有名小説の一節を取り入れる場合、セットに他人の著作物が入り込む場合等、他人の著作物の利用が問題となる場面は多くあるでしょう。また、過去の公演映像のアーカイブ化、eラーニング、上映会の開催等、舞台芸術を二次利用する場面も考えられます。

これらの中には例外規定を使うことで、権利者の許諾なく実現できるものもあります。そこで、近時の法改正も踏まえ、舞台芸術に関わる例外規定についてみていきます。

●「公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年」のご案内
今回掲載した「舞台芸術に関連する著作権法の例外規定」は、「公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年」のために書き下ろされたものです。同書はレターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブックです。

*入手方法はこちらからご確認ください。
<https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>



●私的複製

個人や家庭で楽しむために著作物(文芸・戯曲・台本・音楽・美術等)を録音、録画等を行うことは私的複製として許諾なく行えます。我々にとって最も身近な例外規定といえます。

もっとも、そうすると個人で楽しむ目的での公演撮影を禁止できないかとの疑問も生じ得ます。ケースバイケースですが、チケット購入時に撮影禁止の同意を得ている場合や、施設管理権上の措置(他の入場者への迷惑や演出の妨げになる等の理由)として撮影を禁止できる場合もあると考えられます。

●引用

映画や小説のシーン、セリフを舞台に取り入れる場合、一定の条件を満たせば引用として許諾なく利用可能です。なお、引用部分が著作物といえない場合(ありふれた表現部分を使用する場合等)は、例外規定を使うまでもなく利用可能です。

適法な引用と認められるには、「公表された著作物」につき、「公正な慣行に合致し」、「引用の目的上正当な範囲内で」行われる必要があります。この解釈を巡っては様々な裁判例、学説がありますが、実務上、以下の点が考慮されているといえます。

- ①公表された著作物であること^(※1)
- ②引用部分と自ら作成した部分を明瞭に区別していること(明瞭区別性)^(※2)
- ③引用部分でなく自ら作成した部分をメインとすること(主従関係)
- ④引用の目的が正当であること、引用するだけの必要性があること(目的の正当性、必要性)
- ⑤改変をしていないこと
- ⑥出典の明示^(※3)

●付随対象著作物の利用(写り込み)

例えば写真、動画の撮影やイラストの背景に他人の著作物が付随的に写り込む場合であっても、正当な範囲であれば許容なく利用可能です(写り込みが不鮮明であれば、そもそも複製利用に当たらず利用可能な場合もあります)。

例えば舞台美術として利用するために街角の風景を撮影、スケッチする場合に、他人の著作物(ポスター等)が付随的に写り込んでいても利用可能です。ただし、あくまで付随的に写り込む場合であり、他人の著作物を真ん中に大写しをする場合はこの例外規定には当たらないでしょう。

なお、写り込みの例外規定は2012年の著作権法改正により創設され、その際は、分離困難性(構図上他人の著作物を取り除きにくい等)が要件でしたが、2020年法改正でこれが必須ではなくなりました。他にも、2012年時点では録音、録画、写真撮影での写り込みに限定されていましたが、2020年法改正で、写真に限らずイラストやインターネット上での利用にも広げられました。

●非営利目的の上演、演奏、上映、口述等

①非営利目的で、②観客から料金をとらず、③実演家(演者、演奏者等)に報酬を支払わない場合、公表された著作物であれば、許諾なく上演、演奏、上映、口述等ができます。

例えば文化祭での戯曲の上演、市民有志による無料コンサート、無料映画上映会、朗読会等が考えられます。本規定を利用すれば、施設内で公演収録映像(権利処理された映像が公表済みのもの)の無料上映も可能であり、使い道のある規定です。

ただし、各要件の解釈には注意が必要です。①非営利については、その公演自体は無料イベントでも、企業がPRとして行うようなものは非営利に当たりません。②観客からの料金については、チケット代、入場料といった名目に関わらず、実質的に観覧の対価がある場合は当たりません。チャリティーショー等で、観客から集めたチケット代を寄附する場合も、観客は料金を払っているため該当しません。③実演家の報酬も同様に、実質的に出演対価が払われているかがみられます。「お車代」と称しても実際は交通費を超えた支払がある場合、出演対価が含まれていると考えられるでしょう。また、実演家の多くは無報酬だが演出家や指揮者だけはお金を払ってプロを呼ぶ、といった場合はこれに該当しません。

もうひとつ注意が必要なのは、この例外規定は著作物の改変を認めるものでない点です。改変を行えば同一性保持権といった著作者人格権の侵害となり得ます。例えば学校の文化祭で戯曲を上演するに当たり、時間短縮や教育上の配慮から一部表現を変える場合もありそうですが、著作者の意図に反する改変となり得る場合、著作者の許諾を得ておくことが安全といえます。

●政治上の演説等の利用

公開して行われた政治上の演説は、基本的に許諾なく利用できます。例えば、終戦を伝える玉音放送や三島由紀夫の市ヶ谷駐屯地での政治演説を戯曲に取り入れることが可能です。

●公開の美術の著作物等の利用

公開の屋外に恒常設置された美術作品(銅像やモニュメント等のパブリックアート)や、建築の著作物(なお、建築の著作物となるのはある程度創作性のある建築物です)は、一定の例外を除いて自由に利用できます。

例えば、これらの著作物を撮影、描写して舞台美術に利用することや、ステージ上でモニュメントや建物を再現することも可能です。

ただし、彫刻として増製等すること、建築の著作物を建築として複製等すること、屋外に恒常的に設置するために複製することは認められていませんので、これらに当たらない範囲で行う必要があります。

また、もっぱら販売目的での「美術」の著作物の複製、販売はできないため、パブリックアートを無断でグッズ化はできません。例えばパンフレットに大写して販売することは認められないでしょう。他方、建築の著作物は通常は美術に含まれないのでグッズ化が可能です。一部、特に創作性が高いもの(岡本太郎「太陽の塔」等)は美術の著作物にもなるため、グッズ化ができません。

●教育目的利用

非営利の教育機関では、授業の過程での使用に必要な限度で、公表された著作物を複製、

ネット配信をすることができます。従来から対面授業の講義映像を他会場に同時中継をすることは認められていましたが、2018年の著作権法改正により、録音・録画物をオンデマンド型で配信することや、予習復習用に教師が生徒の端末に公表された著作物を送信することも認められました(包括管理団体に対する補償金の支払が必要。2020年度は新型コロナウイルス感染症への対応として無料とされた)。

これにより、公表された舞台映像を使用したeラーニング等も可能となります。

ただし、非営利の教育機関(大学、専門学校等が含まれます)が行う必要があります。高校、大学、専門学校等は含まれますが(株式会社でもこのような学校を経営する場合は該当します)、営利目的の予備校や、会社の社員研修での利用は含まれないと考えられています。

●所在検索サービスにおける利用

検索エンジン等の所在検索サービスを提供するためにアーカイブ化する行為や、検索結果の提供に必要な限度での著作物の軽微利用は許諾なく行えます。例えば、ある公演名での検索結果に、当該公演映像の一部画像(サムネイル)や一部映像を表示することが可能です。この例外規定も、2018年の法改正により使い勝手が良くなったものです。

●おわりに

実際の利用場面では、例外規定の検討のほか、そもそもその利用方法に著作権、実演家・レコード製作者の権利が及ぶか、権利保護期間^{(*)4}が経過しているかといった検討を経て、権利者の許諾が必要かを判断することになります。

例外規定を含む著作権法を理解しておくことは「本来不要な許諾を得ようとして断られ、泣く泣く利用を断念する」といった事態を減らすことにつながります。

技術の発展や利用形態の変化に応じて法改正が盛んな分野であり、改正により新たな利用方法が可能となることもあります。ぜひ注目してみてください。

*1 公表されている必要があるため、未公表の個人宛の手紙は利用できません。また、インターネット上に公開されていても、権利者の許諾なくアップロードされたものは未公表とされ得る点に注意が必要です。

*2 明瞭区別のために、文章であれば引用部分を「」で括る等します。舞台上ではどうでしょうか。例えば、ある演者が引用する一節を述べた後、自らその作品名を述べることや、別の演者が「○○の一節ですね」と受ける場合がありますが、これは明瞭区別の一例といえます。

*3 出典の明示は、利用方法によります。複製の方法による引用には出典の明示が必要です。それ以外の方法(上演等)による引用では、出典を明示する慣行があるときに必要とされます。また、出典明示は合理的な方法、程度によるとされています。舞台上演において出典明示の慣行があるか、どのような表示が合理的かは微妙なところですが、パンフレットに出典を記載できる場合にはしておくことが無難です。なお、出典の明示は、引用に限らず、他の例外規定でも必要となる場合が規定されています。例外規定による利用の際には注意が必要です。

*4 TPP協定発効に伴う2018年の著作権法改正により、著作権、実演家・レコード製作者の権利保護期間は、従来の50年から70年に延長されています(2018年12月30日施行。同日時点で保護期間が経過していたものには適用されない)。

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

神奈川県平塚市

平塚市美術館

studio COOCAの
パッパラパラダイス
2021—これがとっても
とくいです



「studio COOCAのパッパラパラダイス」展示作品。上：横溝さやか(Osaka) (作品の一部を撮影)、下：辻太郎大塚クマデ

●開館30周年記念 studio COOCAのパッパラパラダイス2021—これがとってもとくいです

【主催】平塚市美術館
【会期】7月10日～9月12日

●平塚市美術館

1991年開館。近代の日本油彩画を中心としたコレクションをもち、2つの展示室で収蔵品展と年3本程度の企画展を開催。近年では教育普及事業にも力を入れ、展覧会ごとのワークショップや対話型鑑賞、学校連携プログラムなどを多数開催。より市民に開かれた美術館を目指し、夏には絵本展など親子向け企画に力を入れ、「studio COOCAのパッパラパラダイス2021」もその一環。

●studio COOCA (スタジオクーカ)

2009年に関根幹司が立ち上げた株式会社愉快が運営する生活介護・就労継続B型事業所。「工房絵(こうぼうかい)」から事業を引き継いで設立。2013年にグループホームcare home CLASSO、2015年にGALLERY COOCA & CAFEを開設。現在、100人ほどのメンバーが登録し、それぞれの人のペースで通所し、活動。

平塚市美術館開館30周年記念展のひとつとして、地元の障害者福祉サービス事業所studio COOCA(スタジオクーカ)のアート活動にスポットを当てた大規模な展覧会が開催された。題して「studio COOCAのパッパラパラダイス2021—これがとってもとくいです」展。タイトルどおり、晴れやかな作品が並び、作者の誇らしげな顔が浮かぶ展覧会になっていた。

会場に入ると、カラフルで強烈な個性を発する作品群にたちまち魅了された。横溝さやかは、大きな画面を可愛らしいイラストタッチの建物や人々で埋め尽くし、地元・平塚や渋谷などの街の活気を見事に表現。ベテラン作家の川村紀子は英字新聞などに色鉛筆でデフォルメされた身体を描くスタイリッシュな作風だ。大庭航介は細いボールペンのみで2～3カ月かけて緻密なモノクロ模様を描き、58歳で初めて絵筆を持った元大工の岩本義夫はファッション誌を飾る洒落た金髪女性しか描かない。

後半の展示室では、メンバーごとにブースを区切って彼らの制作現場が再現されていた。同じ図柄を何百枚と書き続ける要田宏平が几帳面に重ねた紙の束、人生相談をするという福田みのりなど、アートとは無縁に思える物や行為、日常の営みが美術館の中に持ち込まれていた。メンバーと職員の混成チームによる人形劇や音楽ライブの映像も上映され、みんなが思い思いに歌ったり、踊ったりする様子を見ているこちらもちがいが解放されていく。

学芸員の江口恒明さんは、以前からCOOCAに出入りし、その自由な空気感に共感していたと言う。「COOCAは長く平塚で活動されていて、地元での認知度が高い。メンバーの作品は駅の地下道や階段ステップにも使われていて市民に親しまれています。展覧会では、障害者アートという区分を取り払い、地元で表現活動をしている人として紹介したいと思いました」。

COOCAを運営する株式会社愉快は、現在、studio COOCAとGALLERY COOCA & CAFEの2カ所を工房とし、約100人のメンバーが登録し、各自のペースで絵を描き、歌い、踊

り、寝るなど「得意なこと」をして過ごしている。

「絵を描くより、踊るのが好きなメンバーもいます。人形をつくるのが好きなメンバーとお話をつくるのが好きなメンバーがいたことから人形劇が生まれました。COOCAでは、そういう個人のお得意なことを仕事にできるようお手伝いしています。職員はマネージャーみたいなもので、日頃の付き合いから彼らの得意を引き出し、彼らの仕事にし、社会に発信しています」と福祉事業部部長・GALLERY COOCA施設長の北澤桃子さんは言う。

「仕事にする」とは、メンバーが主役となる場面を数多くつくることを意味する。例えば、絵画やイラストなどを描いて展覧会に出品し、雑貨などの商品に展開していくメンバーもいれば、愛嬌のある人柄を武器に各地のイベントに招かれて出演するメンバーもいる。こうしたCOOCAの取り組みを象徴するのが、展覧会に段ボールを切り抜いて作った巨大な「辻太郎招福クマデ」を出展し、小さなクマデをお土産として販売していた伊藤太郎さんとの関わり方だ。

段ボールを切り抜くのが好きな伊藤さんと職員が試行錯誤。鏡餅や注連飾りなどを経て、招福クマデにたどり着いた。伊藤さんの口上付きで販売し、購入すると一本締めをサービスしてくれる。「御利益があると買った人が報告してくださるので、コミュニケーションにもなっています。COOCAは、1人の芸術世界を追求するアトリエというより、職員も含めて全員が影響しあって創作する工房のような場所です。メンバーには個性的な人が多く、その楽しい様子を発信していくためもっとYouTubeにも力を入れていきたいと思っています」と北澤さん。

GALLERY COOCA & CAFEをオープンしてからは地元住民との交流も自然に行われるようになり、地元アーティストたちとの関わりも生まれてきたという。自在な100人のアーティストを抱えているとも言えるCOOCAの存在は、平塚という地域にとって多種多様な人がつながるプラットフォームになるのではないかと。親子連れや若者が訪れる今回の展覧会に、その可能性を垣間見た気がした。(アートジャーナリスト・山下里加)